

# クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2018年1月1日 第39号

公益財団法人 金森和心会

クローバー子供図書館 / 発行

〒963-8851 郡山市開成6-346-1

TEL/FAX 024-932-2118

<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>

## 「受け継がれていくもの」

公益財団法人金森和心会 常務理事

金森 圭子

あけましておめでとうございます。クローバー子供図書館が産声を上げたのは昭和27年、今から65年前になります。開館当初の利用者も今ではおじいちゃん・おばあちゃんになり、最近では親子3代で利用する方もいらつしやるそうです。

クローバーでは、図書の貸出しの他にも様々なイベントを行っています。毎週金曜日には、ロフトにある「お話の部屋」で「えほんのじかん」を行っています。

とある金曜日、クローバーのロフトを訪ねてみると、既に10名ほどの子供たちが集まっています。常連なのかスタッフが座る椅子の真ん前に陣取っている女の子、恥ずかしそうに部屋隅の隅で小さく丸まっている男の子、抱っこしておしゃべりをしている姉妹：「みんな「えほんのじかん」が始まるのを楽しみに待っています。スタッフが取り出した絵本を見て「あっその本、私の家にある!」「見たことない。はじめて!」と一斉にしゃべり出した子供たちも、お話が始まるとあっという間に絵本の世界に引き込まれていきます。隅っこにいた男の子もいつの間にか部屋の真ん中に移動して、身を乗り出して聴いていました。

子供たちの姿を見ていたら、幼いころ、父や母の膝に座ってお気に入りの絵本を読んでもらったこと、夜ふとんに入ってから、母が読む絵本や創作のお話にじっと耳を傾けたこと、大人になって今度は息子に本を読んだり、息子が絵本を読むのを楽しんで聴いたことなど、懐かしい思い出がよみがえってきました。

母と息子にどんな絵本が心に残っているか聴いてみると、息子は「はらぺこあおむし」「ぐりとぐら」「からすのパンやさん」の3冊を挙げました。中でも「はらぺこあおむし」は息子の大的お気に入りの本で、何度も繰り返し読んで、ついにはポロポロになり、同じ本をもう1冊買ったほどでした。新しい本を開いた息子が「この本、『はらぺこあおむし』じゃない!」と泣いて戸惑ったことも、今となっては懐かしい思い出です。2冊の「はらぺこあおむし」、大人は誰も気付かなかったのですが、スイカの先の方の色がほんのちよつとだけ違っていたのです。母が挙げたのは、「ぐりとぐら」と「ちいさいモモちゃん」の2冊でした。母によると「ちいさいモモちゃん」は、私のおむつはずしのヒントにもなったそうです。「ぐりとぐら」は私が1歳の時に発行された本で、親子3代に渡ってお気に入り1冊です。

昭和から平成、20世紀から21世紀へと時代は変わっても、いつまでも変わらず受け継がれていくものがあります。幼いころ読んでもらった絵本を、大人になって今度は子供に読み聞かせる：本は世代を超えて愛され、受け継がれていく宝物です。本は子供たちの想像する力、共感する力、感受性など様々な力を伸ばし、「心の芯」を育ててくれます。と同時に、大人になるに連れて固くなりがちな考え方や心を柔らかく広げてくれる、そんな力もあると思います。

今年一年、皆さんはどんな本と出会うのでしょうか? 皆さんが素敵な本と出会い、豊かな一年となります。まずことを祈念して、ペンをおきたいと思えます。



「はらぺこあおむし」  
エリック＝カール／作  
もりひさし／訳  
偕成社



「ちいさいモモちゃん」  
松谷みよ子／作  
講談社

